

序言

発刊にあたって

監修のことば

凡例

第I編 自然

第一章 草加市の位置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

第二章 草加市とその周辺の地形・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

第一節 関東堆積盆地・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

第二節 火山活動との関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

第三節 海面変動と縄文海進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

第四節 草加市およびその周辺の地形・地質の形成・・・・・・・・・・ 13

第三章 中川低地および草加市の地盤の成り立ちと環境変遷・・・・ 17

第一節 沖積層の基底地形・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

第二節 沖積層の形成モデル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

第三節 沖積層の形成過程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

第四節 中川低地の地形と利根川の河道変化・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

第五節 地形改変・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31

第四章 草加市の沖積層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

第一節 手代町における縄文海進堆積物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

第二節 柿木町でみられた有楽町層下部層と上部層・・・・・・・・・・ 33

第三節 長栄町の有楽町層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35

第四節 高砂一丁目の有楽町層上部層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45

第五節 花栗四丁目の奇妙な貝層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47

、学園町のボーリング試料から 花栗のテストピットから

第六節 瀬崎町の有楽町層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53

第七節 遊馬町の有楽町層上部層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55

第八節 辰井川掘削工事の埋積浅谷・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57

第九節 三郷市・流山市との比較・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59

三郷市花和田 流山市名都借

第一〇節 草加市における古環境変遷・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64

第五章 草加市の河川と諸災害・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68

第一節 草加市の地盤災害をめぐって・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68

第II編 原始・古代

液状化現象	関東大震災による被害	草加市の軟弱地盤
第二節	草加市の河川と洪水の歴史	72
第三節	綾瀬川の水質汚濁	76
第六章	草加市の気候	78
第一節	気温と降水量	79
第二節	気候変動	81
有史以前から現代	昭和四十四年（一九六九）以降の変動	
第三節	気温分布	85
都市気候について	過去の観測例	
第四節	草加市の気候の概括	88
第七章	草加市の生物	91
第一節	植物	92
川辺の植生	水田・畑の植生	森林の植生
公園樹・街路樹などの植生	植物分布	
からみた草加市の環境	帰化植物	
第二節	動物	104
哺乳類	鳥類	爬虫類
両生類	魚類	昆虫類
第一章	旧石器時代の遺跡と遺物	119
第一節	旧石器時代という時代	119
第二節	旧石器時代の変遷	120
第三節	旧石器時代の環境	122
第四節	草加市周辺の旧石器遺跡	123
第二章	縄文時代のはじまり	127
第一節	縄文時代の環境	127
第二節	縄文時代の時期区分	129
第三節	縄文人の生活	132
住まい	ムラの生活	
第四節	草加の縄文時代	140
第三章	弥生時代のはじまり	142
第一節	稲作の開始	142
縄文晩期の水田	遠賀川式土器と稲作のはじまり	
第二節	埼玉の初期弥生のムラ	146
環濠集落	墓	土器と石器
木器		
第三節	リーダーと地域集団の出現	149

第四節	戦いのはじまり	150
第五節	ムラからクニへ	151
第六節	クニから国へ	153
	弥生後期の乱	
	邪馬台国連合の成立	
第七節	草加周辺の弥生時代	154
	最古の土器	
	中期の土器	
	後期の土器	
第四章	古墳時代の草加	156
第一節	大和政権の成立	156
第二節	前方後円墳の成立	157
	最古の前方後円墳	
	前方後円墳の広がり	
	前方後円墳とその他の墳形	
第三節	遺跡の分布と発掘調査された遺跡	162
	古墳時代の遺跡分布	
	西地総田遺跡	
	東地総田遺跡	
	蜻蛉遺跡	
	高稲荷古墳	
	伊興遺跡	
	河川と毛長川流域の遺跡	
	草加を開拓した人びと	
	草加にも古墳があった	
第四節	人びとの生活の復元	174
	S字甕	
	祭り	
	暮らし	
	高稲荷古墳の造営	
	方形周溝墓の造営	
第五節	河川交通	179
第五章	奈良・平安時代の草加	183

第一節	古墳時代から奈良・平安時代へ	183
	前方後円墳の消滅	
	大化の改新の詔	
	法と役所	
	大宝律令の完成	
	奈良の都	
	地方行政機構の整備	
	国分寺の造営	
	平安遷都	
	貴族と武士	
第二節	遺跡の分布と発掘調査された遺跡	188
	西地総田遺跡	
	東地総田遺跡	
	蜻蛉遺跡	
第三節	国・郡・郷	190
	国府・国分寺	
	郡衙	
	足立郡衙の推定地	
	農民の税	
第四節	人びとの暮らし	198
	住居と集落	
	食器類	
	農・工具類	
第五節	河川とのかかわり	205
第三編	中世	
第一章	鎌倉時代の草加の地域	209
第一節	鎌倉幕府の成立と武蔵武士	209
一	源頼朝の平氏討滅	209
	結集する武蔵の武士たち	
	頼朝、関東を制圧する	
	西へ向かう武蔵の武士たち	
二	鎌倉幕府の政治権力	216
	鎌倉の政権	
	あいつく鎌倉の闘争	
	後鳥羽上皇、討幕を決意	
	坂東武士、京都を占領	

三	ある中世武士の存在形態	226
	遠江住人内田氏のこと	内田家吉の系譜
	武蔵に移った内田氏	
第二節	北条得宗体制と武蔵武士	235
	三浦氏、滅亡す	宝治合戦討ち死にの東武蔵の武士たち
	蒙古襲来、九州に向かう武士	
	戦時体制と得宗の専制化	武蔵武士団の後退
第三節	武蔵国の社会状態	244
一	流域低湿地の人びとの暮らし	244
	古利根川流域の荘園	堤を設けた村
二	在地武士の暮らし	248
	惣領制の解体	悪党の時代
	草加地域、物騒がしい時代の空気	
三	東武蔵武士の九州移住	254
	九州に現れる東武蔵の武士	叔父と甥の争い
	九州と東武蔵を往復する百姓	
第二章	南北朝時代の草加の地域	258
第一節	鎌倉幕府の滅亡	258
	膨れ上がる討幕の軍勢	鎌倉を攻める武蔵の武士たち
	畿内からの情報、武士を動かす	
	鎌倉、炎上す	
第二節	内乱期の関東諸国	265
一	東武蔵・常総方面の戦乱	265
	破綻する建武政権	東国からの反逆・室町幕府の誕生
	北畠親房、常陸国に上陸す	
	幕府の軍勢、下河辺荘を通過す	幕府勢の苦況
	常陸方面に響く矢叫びの声	
二	観応の擾乱とその後の武蔵	277
	尊氏と直義の争い	擾乱爆発、鎌倉の抗争
	東国の擾乱、武蔵武士の行動	尊氏、武蔵野を駆ける
	尊氏の西上、基氏の東国経営	関東管領上杉氏
第三節	内乱期の武士の生活	289
	下河辺氏の悩み	戦乱は採算が取れない
	領主が合戦に出かけると	不参、あるいは遅れてきてすぐ帰る
	馬を射る合戦	
第三章	室町・戦国時代の草加の地域	298
第一節	鎌倉府体制と武蔵国	298
	平一揆、蜂起す	小山氏、叛逆す
	太田庄、戦勝祈願の僧に宛てる	政治的緊張の醸成
	上杉禅秀、挙兵す	永享の乱、持氏の暴発
	結城合戦	
第二節	公方と管領の対立	310
	足利成氏の登場	享徳の大乱・武蔵野の死闘
	草加近傍の情勢	草加の北方の情勢
	戦乱の転機	
第三節	小田原北条氏の武蔵支配	320

北条早雲、関東に登場す 北条氏、武蔵に進攻す 氏康、河越を奇襲す 上杉氏の没  
落 早雲の先見性 領国体制の形成

第四節 武蔵野の戦国争乱・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 329

上杉謙信の武蔵進攻 岩付太田氏の草加地域支配 武田の攻勢と上杉の同盟 土豪・  
地侍の武力編成 黒地に赤の日の丸の軍隊 関宿の攻略・北条氏領国の完成 迫りく  
る豊臣権力 庶民の動員、武者めくように 戦国の総動員、寺の梵鐘までが あっけ  
ない滅亡

第四章 草加地域の村落と交通・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 348

第一節 川の道と陸の道・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 348

関東の河川と二つの内海 利根川水系の関 古利根川河口、石浜・今津・品川 古利  
根川河畔、柿木村の風景

第二節 村民生活の諸相・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 356

矢古字郷の住民 住民の闘い 谷古字の住民、代官入部を拒否する

第三節 もたらされた信仰遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 362

六角宝幢形経筒 板碑

第四節 育まれた信仰・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 369

中世の仏教信仰 中世の神祇信仰

第IV編 近世前期

第一章 近世前期の草加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 381

第一節 江戸幕府の成立と草加地域・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 381

一 家康の関東入国と知行割り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 381  
徳川氏の江戸討ち入り 家臣団の知行割り 草加市域の大名・旗本・寺院領

二 近世の村々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 394

村のしくみ 村民統制 草加市域の村々

第二節 利根川流路の付け替えと奥州古道・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 402

一 利根川の瀬替と新田の開発・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 402  
草加の周辺地域 利根川の瀬替 新田の開発

二 奥州古道と古記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 408

奥州への古道 梅津政景の日記 日野資勝の日記

第三節 綾瀬川の変遷・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 415

一 新綾瀬川の成立・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 415  
古来の綾瀬川 綾瀬分流口の瀬割り堤 新綾瀬川と伝右川

二 綾瀬川の用水堰止め禁止令・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 420

綾瀬川の川底隆起 谷古田用水の成立 綾瀬川藻刈組合の結成

第四節	伊奈氏の知行地と支配地の変遷	424
一	伊奈忠治の台頭	424
	伊奈宗家と伊奈忠治 新田開発の督励	424
二	忠治の知行所と支配地	427
	忠治の支配地 赤山陣屋 伊奈知行地の移動 領地の分給	427
第五節	検地と農民負担の推移	432
一	検地と村高	432
	検地 草加市域の伊奈検地 元禄検地	432
二	近世の貢租課税	435
	年貢 高掛物 徴租法 年貢割付	435
第二章	草加宿の成立と機構	442
第一節	近世伝馬宿の成立	442
一	日光道中の成立と草加	442
	近世伝馬宿への道 草加宿の母体「さうか」 日光道中の成立 草加宿の誕生	442
二	伝馬の継ぎ立てと助郷	449
	伝馬の継ぎ立て 相対賃銭・御定賃銭 参勤交代 日光社参 助馬村 草加宿の助郷 御定人馬	449
三	草加宿の機構と経営	459
	宿場支配 草加宿の町並み 宿場町の生成 宿場財政 高役免除・地子免許 六斎市	459
第三章	鷹場と草加	465
第一節	將軍家の鷹場と捉飼場	465
	古来の鷹狩り 家康の鷹狩り 鷹場の設定 鷹匠頭支配捉飼場 紀伊家鷹場の設定	465
第二節	生類憐みの令と鷹場の禁止	473
	生類憐みの令 鷹場の廃止	473
第四章	村と農民	476
第一節	身分制度と村びとの生活	476
	武士と町人・百姓 農民生活	476
第二節	五人組制度	479
	五人組 五人組帳	479
第五章	江戸幕府の宗教政策	482
第一節	幕府における寺社への保護と統制	482
	朱印地 除地 寺社への統制 寺院法度と本末制 市内寺院の本末 近世寺院の役割	482
	キリシタンの弾圧と草加地域 宗門改めとその影響	482

第二節 草加市内の寺院・神社	493
寺社の縁起・由緒	
住持の任免	
神官の任免	

## 第V編 近世後期

第一章 支配体制の再編成	501
--------------	-----

第一節 吉宗と関東郡代伊奈氏	501
----------------	-----

吉宗の治政	定免制の施行	関東郡代の権力削減	伊奈氏支配地の削減	老中支配の伊奈氏
-------	--------	-----------	-----------	----------

第二節 伊奈氏の失脚と忍藩主の交代	506
-------------------	-----

伊奈忠尊の失脚	忍藩主の交代	松平氏の忍入城
---------	--------	---------

第三節 鷹場の復活	509
-----------	-----

一 将軍鷹場	将軍鷹場の復活	将軍鷹場の諸相	雇餌差	鷹狩りの実態	小菅御殿と昼間家訪問
二 紀伊家鷹場と捉飼場	紀伊家鷹場の農民生活	捉飼場			

第二章 草加宿の変貌と伝馬の継ぎ立て	519
--------------------	-----

第一節 宿場機能の変化	519						
旅人と宿場	伝馬屋敷の実際	伝馬屋敷の義務	地借・店借				
第二節 宿場の繁栄と宿端場・立場茶屋の成立	523						
本陣と脇本陣	木賃宿と旅籠屋	草加宿の旅籠屋	食売旅籠屋	草加宿の食売女			
食売女の実態	宿端場と間の宿の盛況	一里塚	松並木				
第三節 問屋の交替	532						
両問屋の活躍	高札場の移設	草加宿の経理の実態	無名・無印筒訴一件	宿入用			
費問題	問屋大川家の終焉と名主・本陣の交替						
第四節 宿場町の活況と陰影	539						
天保期の草加宿	天保期の宿内活況	宿場の整備	宿方問屋役の欠落事件	宿場豪商の台頭	表店子・裏店子	困窮人と施金・施米	
第五節 参勤交代・日光社参の実態	551						
上米制度と参勤交代	秋田藩の参勤交代	門主の通行と草加宿	享保十三年の日光社参				
第六節 伝馬負担の増大と助郷・飛脚	557						
宿人馬と助郷	昭和八年継ぎ立て不参事件	天明五年継ぎ立て不参事件	宿と助郷対談議定	貫目改所の設置	助郷会所	近世の飛脚	草加宿の飛脚
第三章 近世後期の治水と利水	565						

第一節	見沼代用水の成立と河川・用水の管理	565		
	伊沢為永の登場	見沼代用水	四川奉行	亀有溜井の廃止と葛西水路の成立
	江戸川の改修	御普請役の登場		
第二節	綾瀬川の浚切上普請	571		
	普請の方法	宝暦の綾瀬川切上普請	文政の綾瀬川切上普請	綾瀬川の普請役支配
	備前堤をめぐる争い			
第三節	綾瀬川沿い低地村々の水争い	576		
	綾瀬川沿い低地村	江戸後期の用水状況	ぼつけ堰枠問題	
第四節	舟運の発達	580		
	江戸時代の舟運	綾瀬川の舟運	魚屋河岸と甚左衛門河岸	舟運による肥料輸送
第四章	近世後期の社会の動揺	585		
第一節	村方騒動と一揆・打ちこわし	585		
	伝馬騒動	江戸打ちこわし騒動	忍藩先納金騒動	
第二節	文政と天保の改革	590		
	商品作物の普及	草加市域の商品作物	風俗と治安の悪化	関東取締出役の設置
	改革組合の結成	天保の改革		
第三節	災害と御手伝復旧普請	597		
一	たび重なる水害	597		
	宝永・寛保の洪水	宝暦・明和・安永の水害	天明の水害	享和・弘化・安政の水害
二	旱害・震災・火事、浅間山の噴火	602		
	明和以後の旱害	浅間山の噴火	天明・文化の草加宿大火	安政の大地震
第五章	幕末動乱期の草加	606		
第一節	幕末の伝馬の継ぎ立て	606		
	幕末の混乱と業務の増大	参勤交代制度の緩和	幕末の助郷紛争	
第二節	幕末の政治状況と外圧	610		
	列強の接近と幕府の対応	ペリー来航	品川台場の築造	鎖国政策の破綻
第三節	幕末の動乱	617		
	天狗党の乱	長州征伐	幕府の崩壊	
第六章	教育と文芸、信仰	621		
第一節	近世草加の教育	621		
	朱子学の登用	幕府および諸藩の教育制度	村役人への教育・寺子屋での教育	八幡
	神社・神明宮の寺子屋	蓮泉堂	筆子奉納額	寺子屋の女師匠
	草加市域の諸芸			和算と算額
第二節	草加の文芸	630		

一 埼玉の文芸風土の起源	630
古代の歌集にみる武蔵国 『将門記』	中世文学にみる関東
と川柳	近世俳諧の成立
二 街道文化と作品 — 『奥の細道』 —	狂歌
松尾芭蕉 『曾良随行日記』からみた『奥の細道』	草加の条における問題点
本」の出現と「曾良本」との相違	「野坡
三 街道文化と作品 — 『結城使行』ほか —	
『結城使行』 「日光道之記」	『日光参詣旅行記』
『日光道中日記』 『道の記』	『日光巡拝図誌』
『日光道中日記』 『道の記』	『測量日記』
『遊歴雑記』	
四 地域文芸の芽生え	
越ヶ谷吾山 加茂国村 大川雨声	刻まれて残る諸芸
五 草加と美術家たち	
蕪村と『奥の細道』 谷文晁 渡辺崋山	三覚院本堂格天井板絵
加 草加の無名な美術家たち	浮世絵にみる草
第四節 暮らしの中の信仰	
一 彫像資料と金石資料	
寺院・堂庵の彫像	神社の彫像
	金石遺物
二 奉納・巡拝・代参	